

**鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action! セカンド
第6回（7月17日（木）放送分）の概要**

今回は、「家で実施するデマンドレスポンス」というテーマを取り上げます。

この言葉の紹介の前に、まずは。前回紹介した市の補助事業の中に、家に太陽光発電用のパネルと蓄電池を設置するといったものがありましたよね。この蓄電池は、屋間に太陽光で作られた電気を、家で使いきれない場合にためて、夜などに使うという形で活用されるものです。

このシステムにより、発電した電気を無駄にしないで使えることとなり、また外から買ってくる必要もないので、家計にも優しく、また地球環境にも優しいということにもなります。

今回は、この太陽光発電設備や蓄電池を使って、さらに家計や環境に優しい取り組みが始まろうとしているというお話をします。この新しい取り組みのキーワードが「デマンドレスポンス」となります。

この言葉、ほとんどの方は聞いたことがないかと思います。ただ、ニュースなどで取り上げられることもあるので、言葉としては聞いたことがあるといった方もいらっしゃるかもしれません。

電気は地域全体で、発電する量と使用する量を常に一致させる必要があります。最近では、一般的に晴れた日の屋間の発電量は、太陽光発電の影響などで多くなり、余らせてしまうことが多くなっているのですが、一方電気の利用量は、夕方などそれに多いこととなります。

ということで、余る電気を蓄電池にためるなどして、時間をずらして夕方などに使うということが行われ始めていて、こういったものを「デマンドレスポンス」と呼んでいます。

「デマンドレスポンス」とは直訳すると、「電気を使う量について、対応していく」という感じの意味となります。ですから利用時間帯をずらすというものも含めて、「家庭などの電気の利用者が、自分で使う電気の使用量を調整することで、地域全体の発電量と電気の利用量のバランスをとるのに貢献する」というのが、この用語に対する説明になります。

なるほど。自分で調整するんですね。

ただ、例えば電気の利用量が予想よりも大きくなったときに、積極的に節電をして利用量を減らすといった活動も「デマンドレスポンス」といえるので、「デマンドレスポンス」、つまり電気の使う量の調整方法には、いろいろあるということも知っていただければと思います。

そして、最新の動きを紹介しましょう。

家にある蓄電池は、今は昼に家でためて、夜に家で使うといった使われた方をしているのですが、これを一步進めて、電気の余る時間帯に貯めた電気を、電気が足りなくなる時間帯に、家で使うだけでなく、電力会社に売って地域全体で使ってもらおうというやり方の実証が始まっています。

これは、電力会社などが遠隔で操作して行われるものです。

電力の無駄使いが減らせるってことですか？

そうなのです。家で使いきれない場合もあるから、外に送るという感じですね。。

この取り組みは、家1軒だけではとても小さい量ですが、多くの家でまとめて実施すると、それなりの効果となります。

そして、こういった電気の安定供給に貢献する取り組みに対して、電力会社等から対価としてお金を払うというという仕組みもできつつあるのです。つまり、ビジネスとして成り立つ可能性が出てきています。興味深いです。

ちなみに、業界用語の紹介ですが、たくさんの方が提供する電気を集めたり、家から電力会社に売るといった命令を遠隔でする役割は重要であり、そうしたことをやる方をアグリゲーターとよんでいます。「集める人」みたいな意味ですね。

もう一つ業界用語を紹介すると、家の蓄電池といった発電機でないものを使って電気を送電線に送ったりするシステム、つまり今回のようなシステムのことを、VPP(ヴァイピーピー)、バーチャルパワープラントと呼んでいます。今後、VPP もよく聞かれる言葉になるかもしれないですね。

デマンドレスポンス、今は実証段階ですが、ご家庭にとっても新たな収入源になるので、今後広まってくるとよいなと思っています。

こうした取り組みは、設備を設置している市民の方はあまり意識しなくても、地域のゼロカーボンに貢献するとともに、家計にも優しいといったものになります。

こうした、無理せずに、そして自分たちだけでなく地域にもメリットがあるような取り組みの検討が進んでいることを、知ってもらえればありがたいです。